

こどもと絵本 よんでもよんでも!



茨城県・社団法人青少年育成茨城県民会議

.....はじめに.....

家庭は子どもにとって最も身近な生活環境です。

近年、家庭の教育力の低下やメディアの影響により生活スタイルが変わり、子どもの育ちにさまざまな影響を与えていることは否めません。

やはり、豊かな家庭を育むためには、親と子があ互いに育ち合えるような温かい関係が生まれる場が必要だと感じます。

絵本を通し、心の教育に目を向けた0歳から始まる「絵読み」「絵遊び」の世界は、子どもらしい感性の芽生えとなり、心豊かにたくましく生きる力へとつながる大きな力を持っています。また、親子で出会う絵本を通して感情を共有しあい、温かい親子の絆が深められていくことでしょう。

ほとんどの親が絵本は大切であると認識を持っています。ただ、残念なことに3割近くの親は、子どもに絵本を読んであげていません。理由は、忙しい、時間がない、子どもが欲していない、子どもが自分で読んでいるからよい…等です。

このような背景には、親自身の読書体験の違いがあります。親が読書体験の重要な道づくりとなるいくつかのきっかけに出会っていないことです。

1つは真っ白な赤ちゃん時代です。温かく包まれながら感性の扉は開かれなのです。

2つは絵本の物語体験(間接的ですが自分が主人公)がさらにふくらみ、現実に立ち向かいつつ自ら開こうとしていく扉です。

そして3つめは大人になって、再び子どもと語れる循環する喜びの扉です。

お母さんの暖かいお膝や胸の中、お父さんのおひげの感触、大きなあぐらの中で、寝ころんだり、ならんだり、いろいろな場面はいつでもどこでも子どもの感性の世界となることでしょう。

この推奨図書は、実際に子どもたちに読み聞かせを行い、とても喜ばれたものや、「もっと読んで!」という子どもたちの声などをもとに選定しました。

多くの方々にご活用いただければ幸いです。



● 親子で楽しめるいろいろな絵本 ●

文字の入っていない絵だけの絵本

絵そのもの、色そのものの魅力は大きいものです。次に、その絵がどんな語りかけをしてくれているのかも、絵本を見る側との関係が成立していくのです。

身边かなものごとの絵本

日常の中で出会う動物や動く乗りもの、生活の場面の出来事など、絵と実際の体験につながるものや成長とともに、なぜ？どうして？と興味の広がりに応じられるものなどがあります。

絵の入った物語の絵本

ファンタジックなものから冒険もの、ほのぼののものなど、面白さや楽しみの中で、子どもの想像力、空想力を育てていくものです。

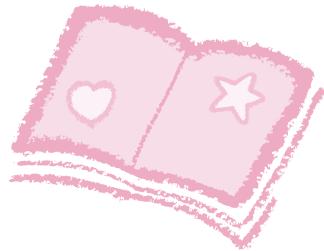
童話や昔話・伝記ものの絵本

親から子へと読み聞かせ、語り継がれていく絵本文化の大切さといえましょう。絵本の魅力を大人も味わえるものです。

その他、ゲーム性のある仕掛け絵本

音の出るもの、CD付き、立体画、シール遊びや切り込み、なぞときなど…。絵本が玩具化したようなものです。

さまざまな絵本がありますが、何といっても子どもが選ぶ好きな絵本、何度もよんでもほしい本が、一番その子に合っているものです。そこには、子どもの好きな色彩やお話の内容、場面があります。そんな子どもの心を大事なきっかけとしましょう。



● 絵本とともに育つ子どものすがた（参考）●

0歳～

絵本を通して遊びや会話を大切にしましょう。表情を理解し、言葉のトーンに关心や心地よさを感じつつ、人がいて楽しいと周りと自分との関係が生まれます。対人関係の基礎となります。

1歳～

音声、高低、抑揚など言葉を真似ようとします。2語3語と言えるようになり絵本を見て名前を言ったり、動物に興味を示しては絵本を読みたがります。

2・3歳～

言語についての能力が大きく伸びる時期にあります。絵本を読んでもらったり、自分で文章を復唱したり語りごとの豊かさと合わせてファンタジックな思考の中でイメージを大きくふくらませられる子どもらしい感性が育っています。

4・5歳～

読書活動が伸びていく時期にあります。同時になぜなにから知的活動へと広がりを見せます。読むこと、話すことから考えたり判断したりする力も強まります。この時期に色々な本と出会うことで豊かな体験と幅広い個性の開花へと向かいます。

図書索引

対象年齢 0歳～ P2 P3

- NO. 1 あがりめ さがりめ
NO. 2 いないいないばあ
NO. 3 いないいないばあ あそび
NO. 4 おつきさま こんばんは

- NO. 5 あっぱい
NO. 6 たまごのあかちゃん
NO. 7 ぴょーん
NO. 8 もこ もこもこ

対象年齢 1歳～ P4 P5

- NO. 9 うしろにいるのだあれ
NO.10 おにぎり
NO.11 かお カお どんなかお
NO.12 <だもの

- NO.13 じゃあじゃあ びりびり
NO.14 でてこい でてこい
NO.15 ねないこ だれだ
NO.16 のせて のせて

対象年齢 2・3歳～ P6 P8

- NO.17 あんなじ あんなじ
NO.18 ぐりとぐら
NO.19 ごきげんななめの てんとうむし
NO.20 さつまのおいも
NO.21 14ひきのあつきみ
NO.22 しろくまちゃんのほっとけーき
NO.23 タンタンのずぼん
NO.24 でんしゃにのって

- NO.25 どうぞの いす
NO.26 ねずみくんのチョッキ
NO.27 ねずみの でんしゃ
NO.28 はけたよ はけたよ
NO.29 パパ、あ月さまとって！
NO.30 はやくなてよ
NO.31 はらぺこあおむし
NO.32 わたしのワンピース

対象年齢 4・5歳～ P10 P12

- NO.33 あしたも ともだち
NO.34 あらしのよるに
NO.35 エルマーのほうけん
NO.36 ああきなかぶ
NO.37 あしいれのほうけん
NO.38 からすのパンやさん
NO.39 こすずめのほうけん
NO.40 ざりがにのあうさま まっかちん
NO.41 三びきのやぎのがらがらどん

- NO.42 じごくのそうべえ
NO.43 しゅくだい
NO.44 ずっとずっとだいすきだよ
NO.45 ないた あかあに
NO.46 にゃーご
NO.47 やまのぼり
NO.48 モチモチの木
NO.49 ももたろう
NO.50 わすれられないあくりもの



あがりめ さがりめ

真島 節子／絵
こぐま社

NO.1



いないいないばあ

松谷 みよ子／文
瀬川 康男／絵
童心社

NO.2

手を使ったり、体を動かしたり、うたにあわせて遊ぶ絵本です。「あがりめ、さがりめ」とリズミカルにねこと遊び、「げんこつやまのたぬきさん」とたぬきと遊び、つぎつぎと遊びができ、声を出して、体を動かして、赤ちゃんと一緒に心がはずみます。

子どもが一番最初に出会う絵本。言葉がわからなくても喜ぶ絵本です。いないいないばあは、お母さんの愛情の現われなのです。いま泣いたからすがもう笑った。いないいないばあで泣きやむ子もいます。親子があつたかーい時を共有できる絵本です。



いないいないばああそび

きむら ゆういち／作
偕成社

NO.3

おつきさま
こんばんは林 明子／作
福音館書店

NO.4

しきあそび絵本です。はっきりした大きな絵。ページを開くとこいぬの口がいなないない、手をどけるとばあ! ピイちゃん、ねこのみけちゃんと、いなないないばあ遊びができて赤ちゃんとお母さんが、最初に絵本で遊ぶことを知る楽しい絵本です。

夜になって暗い暗いおそらにまんまるのおつきさま、「おつきさま こんばんは」赤ちゃんもおつきさまがだいすきです。あやすみまえに読んであげると、とても楽しく、情操豊かな心でねむることのできるすてきな絵本です。



おっぱい

みやにし たつや／作・絵
鈴木出版

赤ちゃんがはじめて口にふれるもの、それはお母さんのあっぱいです。ぞうさんも、ぶたさんもあっぱいのむのかな。やわらかくってあつたかいお母さんのおっぱい。ゴクン、ゴクンってのんでつつきたくなります。あっぱいだいすき、やさしい絵本です。



たまごのあかちゃん

神沢 利子／文
柳生 弦一郎／絵
福音館書店

子どもはくりかえしが大好きです。たまごの中でかくれんぼしている、いろいろな動物の赤ちゃん。「でてあいでよ」と声をかけると次々と出てきます。あつたか~い色。やさしい絵。命の誕生! 「でてあいでよ」と声かけながら読みたい絵本です。



ぴょーん

まつおか たつひで／作・絵
ポプラ社

かえるがぴょ~ん、ねこがぴょ~ん、まつ白いあなかを見せてとんでいきます。いろいろな動物や魚がとぶ。本のめくり方とぴょ~ん ぴょ~んの口真似で赤ちゃんが声をあげて笑うことでしょう。
「さあ~読んでみて下さい」とっても面白い絵本です。



もこ もこもこ

谷川 俊太郎／作
元永 定正／絵
文研出版

もこもこと、よきによきは仲良しさんなのにあれえー、しーん、擬音のくりかえしにあわせて絵が変わっていきます。どこまでもどこまでも続いていくのでしょうか。大人はふわーんといい気持になり、子どもは大好きになる魅力のある不思議な絵本です。

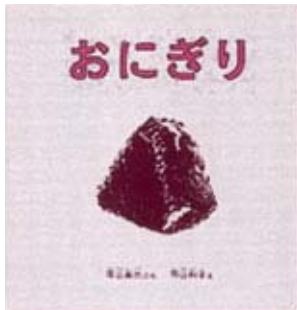


うしろにいるのだあれ
(うしろにいるのだあれ)

ふくだ としあ／作
新風舎

NO.9

「ぼくのうしろにいるのだあれ」かめくんかしら、そのうしろにいるのはだあれ、しっぽがみえてる。「あっ、そのうしろは」じゃあ、「まえにいるのはだあれ」へびくんだ。そのまえは…だあれ、上にいるのはだあれ、まわりをよくみてね。楽しい絵本です。想像の絵本です。



おにぎり

平山 英三／文
平山 和子／絵
福音館書店

NO.10

おにぎりの絵本は、みんな大好きです。本を読みながらページをめくるとおにぎりのつくり方といっしょに。「てのひらにみずつけて」しあをつけて「あっ、あっ、ふうふう、」うめぼしつめてぎゅー、まねっこどんどん、おいしいです。

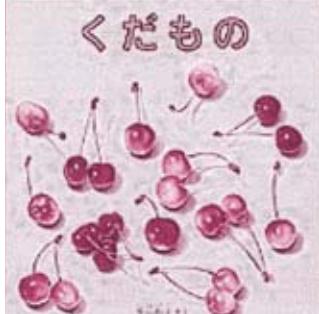


かお かお
どんなかお

柳原 良平／著
こぐま社

NO.11

顔には目がふたつ、はなはひとつ、くちがひとつ、その顔がたのしい顔や、かなしい顔、あつたかい顔、あこった顔といろいろな顔をします。
本と一緒にこどもたちはいろいろな表情をまねしてくれるでしょう。

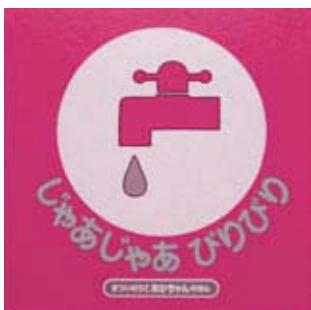


くだもの

平山 和子／文・絵
福音館書店

NO.12

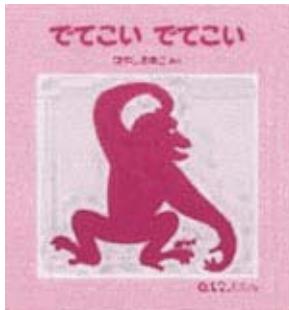
「さあどうぞ。どれにする」手をのばして食べたくなるほどの美しい見事な絵です。すいかは切って、りんごはむいて、いちごは洗って、まだまだたくさん、みんなと一緒に「いただきます」(くだものだいすきシリーズです)



じやあじやあ
びりびり
まつい のりこ／作・絵
偕成社

NO.13

赤ちゃんが持てる小さいサイズにつくられています。しかも、めくりやすいようにしっかりとした厚紙でつくってあります。毎日の生活の中で聞こえてくる音が、絵の中であざついているようです。ほら、絵の中から音が聞こえてくるでしょう。



でてこい でてこい
林 明子／作
福音館書店

NO.14

はっきりした色と形。でてこい でてこいと声をかけると色の中から、アラ不思議、動物が出てきます。誰がでてくるのかなあ？ 声をかけないと出てきませんよ。その色と形の中に誰がかくれているのか、さわってみたくなる絵本です。



ねないこ だれだ
せな けいこ／作・絵
福音館書店

NO.15

とっても面白くてわかりやすい絵本です。「ねないこだれだ」時計がなります。こんな時間にあきているのはだれ？ みみずく、ふくろう、くろねこがあらわれた。夜中はおばけの時間よ！ 作品の中の「絵」がすばらしいです。



のせて のせて
松谷 みよ子／文
東光寺 啓／絵
童心社

NO.16

ブーブーまこちゃんの赤い自動車が走ります。乗せて乗せて！ と手をあげるうさぎさんも、くまさんも、ねずみさんもみんなまこちゃんの赤い自動車にのせて走ります。私も乗せて！ と手をあげていっしょに走りたくなる絵本です。

対象年齢
2・3
歳から



おんなじ おんなじ

多田 ヒロシ／作
こぐま社

NO.17

お友だちとあんなじ物をもっているってうれしいですね。ぶうとぴょんがぶつかって泣いてしまうところでは「どうしたのかな」と聞いて見て下さい。話しているうちに優しい気持ちになることでしょう。あんなじ あんなじと繰り返すことばが心地よく響いてきます。



ぐりとぐら

なかがわ りえこ／文
やまわき ゆりこ／絵
福音館書店

NO.18

ぐりとぐらは大きな卵をみつけて、カステラを作りました。ふんわりとした大きなカステラです。卵のからが何になるかハラハラドキドキします。考えて、やってみて、だめだったらまた考えて、やってみる……人として生きていくうえで大切なことを教えてくれます。



ごきげんななめの てんとうむし

エリック・カール／作
もり ひさし／訳
偕成社

NO.19

きげんのよいてんとう虫とごきげんななめのてんとう虫のお話。すぐにけんかをしてしまうごきげんななめのてんとう虫は、自分にあつたけんか相手を探そうと飛び立ちます。一番大きい相手はくじらでした。だんだん自信がなくなったてんとう虫を温かく迎えてくれたのは…変化のあるページをめくりながらお話を楽しめます。



さつまのおいも

中川 ひろたか／文
村上 康成／絵
童心社

NO.20

さつまいもがお店に並び、やきいもの香ばしい匂いがただよってくる頃に読んであげたい絵本です。おいもは土の中で何をしているのでしょうか。ごはんを食べるのかな、あふろにもはいるのかな、夢もみるのかな。親しみのものてる絵から、おいもとなかよしの友達になれそうです。繰り返し読みながらいろいろな会話を楽しみましょう。

対象年齢
2・3
歳から



14ひきのおつきみ

いわむら カズオ／作
童心社

NO.21

大きな木の上におつきみ台を作り、お団子や木の実をあ供えして、自然の実りに感謝します。まんまるおつきさんがぽっかり浮かんだページは、自分もねずみの家族になったようです。自然の情景、しぐさ、色彩などがとても美しいです。おつきみが近付いてくるころに、ていねいに、ゆっくり読んであげてください。



しろくまちゃんの ほっとけーき

わかやま けん／作
こぐま社

NO.22

しろくまちゃんとお母さんがホットケーキを作る楽しそうな様子が、リズムのある文章とやさしい絵で描かれています。ホットケーキができる過程がフライパンの音で表現されていて、ホットケーキのにおいが絵から伝わってきます。読んだあとで一緒に作ってみると、さらに楽しいです。



タンタンのすばん

岩村 和朗／作
偕成社

NO.23

身边にあるものが、いろいろな形に変身していくおもしろさに、「次はどうなるの？」とワクワクしながらページを自分からめくることでしょう。少しずつ自分で着替えをするようになってくる頃に、楽しく読める絵本です。シリーズになっているので続けて読んでみましょう。(タンタン絵本シリーズです)



でんしゃにのって

とよた カズヒコ／作・絵
アリス館

NO.24

うららちゃんは、おばあちゃんのところへひとりで電車に乗っておでかけをすることになりました。しっかりと切符を握りしめて。電車が停まるたびに、駅名と同じいろいろな動物が乗り込んできます。ガタゴト、ガタゴト…電車は次にどこに停まるのかな？うららちゃんの降りる駅はどこかしら？楽しく想像しながら読める絵本です。

対象年齢
2・3
歳から



どうぞの いす

香山 美子／作
柿本 幸造／絵
ひさかたチャイルド

NO.25

うさぎさんのちょっとした思いやりから、優しさがみんなに広がっていき、読んでいるとほんのりとした温かい気持ちにさせてくれます。自分のことだけでなく、他人のことも思いやれる優しさを子どもに伝えたいという思いで読んでみてください。どうぞという言葉の響きが心地よく感じられることでしょう。



ねずみくんの チョッキ

なかえ よしを／作
上野 紀子／絵
ポプラ社

NO.26

お母さんが編んでくれた大切なチョッキ。みんなに貸してあげているうちにどんどん大きく伸びてしまいます。自分の物をだれかに貸すのはとても勇気のいることです。友達ができるようになる頃には、あなたならどうする？と話しながら読んでみてください。



ねずみの でんしゃ

山下 明生／作
いわむら かずあ／絵
ひさかたチャイルド

NO.27

7つ子の子どもがいるねずみの家族、お母さんはいつも大忙し。まるで保育園のようです。お出かけの時には電車ごっこが一番。親しみがもてる絵とリズム感のある繰り返しの言葉は子どもの心をとらえます。次はどうなるの？と、期待させながら読みたい絵本です。



はけたよ はけたよ

神沢 利子／文
西巻 茅子／絵
偕成社

NO.28

うまくパンツがはけないつくんは、ツルツルあしりで家を飛び出します。出会う動物たちからしっぽのないあしりと笑われてしまします。自分でズボンをはこうとしてもふらふらして転んでしまうような時、それでもがんばってやろうとするようになってきた頃に読んであげましょう。「ぼくは、できるもん！」という言葉が返ってくることでしょう。

対象年齢
2・3
歳から



パパ、お月さまとって!

エリック・カール／作
もり ひさし／訳
偕成社

NO.29

月にとどくような、ながーい ながーい
はしご。子どもの気持ちは、はしごをどん
どん登っていきます。大きな仕掛けにいつ
の間にかあはなしも物語りに引き込まれ
ます。お月さまについたところのページの
おどろきは、いつまでも、心に残ると思
います。



はやくねてよ

あきやま ただし／作・絵
岩崎書店

NO.30

なかなか寝つけない子って、頭の中でい
ろいろ想像や思いを広げているのでしょ
うね。そう思うとフッと力がぬける絵本です。

何度も読み聞かせるうちに、子どもも繰
り返しフレーズを口ずさんで一緒に楽しむ
ことでしょう。



はらぺこあおむし

エリック・カール／作
もり ひさし／訳
偕成社

NO.31

卵から生まれたはらぺこあおむしは、子
どもたちの大好きな、くだものやケーキな
どを次々と食べていきます。そしてサナギ
になり蝶へ…

命の不思議と神秘が、鮮やかな色と楽
しいしかけで表現され、子どもたちに長く愛
されている絵本です。



わたしの ワンピース

西巻 茅子／作
こぐま社

NO.32

ラララン、ロロロンうきうきうさぎさん。
真っ白なきれいで作ったワンピース。どんな
模様がにあうかな。模様がまわりとの出
会いで変わっていきます。「どこへ行くのか
な?」「どんな模様になるのかな?」自分で洋
服をえらぶようになるころに読みたい絵本
です。

対象年齢
4・5
歳から



あしたも ともだち

内田 麟太郎／作
降矢 なな／絵
偕成社

NO.33



あらしのよるに

きむら ゆういち／著者
あべ 弘士／画家
講談社

NO.34

オオカミとキツネのおはなしから、友達とのかかわりを学べる絵本です。

友情を独占したい心や自分に素直になれない気持ちなどが描かれています。人への思いやりの心を持つことの大切さが、やさしいオオカミの姿を通して描かれています。(あれたちともだちシリーズです)

嵐の夜に、真っ暗闇の山小屋で、偶然に出会い、お互いを仲間と思い込んでしまったオオカミとヤギのお話です。ちょっととほけた会話とユーモラスな絵で進んでいくストーリーは、声を出して読むと臨場感を増し、さらに心にしみることでしょう。はたして、オオカミとヤギは友達になれるのでしょうか？



エルマーのぼうけん

ルース・スタイルス・ガネット／作
ルース・クリスマン・ガネット／絵
渡辺 茂男／訳
福音館書店

NO.35



おおきなかぶ

A・トルストイ／再話
内田 莉莎子／訳
佐藤 忠良／画
福音館書店

NO.36

毎日、読んでもらうのをワクワクドキドキしながら楽しみに待てる本です。エルマーは、冒険好きな男の子。空から落ちたりゆうのこどもを助けるために知恵と勇気をもって探検の旅に出かけていきます。自分がエルマーになって楽しい冒険ができる絵本です。

おじいさん、おばあさん、まご、いぬ、ねこ、ねずみ、みんなが力を合わせて大きなかぶをひっぱります。「うんとこしょ どっこいしょ」。リズミカルなかけ声が何度も繰り返されます。子どもと一緒に大きな声をだして読んでください。

対象年齢
4・5
歳から



おしいれのぼうけん

ふるた たるひ／著
たばた せいいち／画
童心社

NO.37

お話の始めでは、保育園の中には怖いものが二つあります。「おしいれ」と「ねずみばあさん」です。それが最後には楽しいものになっていました。何があったのでしょうか。保育園のおしいれの中で繰り広げられる大冒険。わくわくするお話です。



からすのパンやさん

かこ さとし／絵と文
偕成社

NO.38

「ぶーん」と今にもおいしそうな臭いが漂ってきて、食べてみたくなるようなパンやさんのお話です。泉が森中が大きすぎ、からすのパンやさんが作ったてきなパンを買うのに大ぜいやってきて、パンやさんは大繁盛。子どもと読んでみると元気が出てくる絵本です。



こすずめのぼうけん

ルース・エインズワーズ／作
石井 桃子／訳
堀内 誠一／画
福音館書店

NO.39

飛び方を覚えた子雀は、もっと遠くへ飛びたいと、お母さんの言うことを聞かないで飛び続けました。でも疲れてしまい、他の鳥の巣では休ませてもらえず、暗くなり始めた中を一人歩きます。子どもの独立心とそれを包むお母さん的心が、温かく描かれた絵本です。



ざりがにのおうさままっかちん

大友 康夫／作・絵
福音館書店

NO.40

保育園の子どもたちは、ざりがに釣りが大好き。でも年中組ののぞみは、まだ一匹も釣ったことがありません。友達も先生もお父さんもいろいろと教えてくれますが、やっぱり釣れません。最後にみんなに協力してもらって釣り上げたのは…。子どもたちの様子が活き活きと描かれた本です。

対象年齢
4・5
歳から



三びきのやぎのがらがらどん

瀬田 貞二／訳
マーシャ・ブラウン／絵
福音館書店

NO.41

小さい山羊、中くらいの山羊、大きい山羊が順番にあはけのトロルのいる橋を渡ります。話がすすむにつれて、それぞれ山羊の声の大きさ、橋を渡る時の音、そしてトロルとのやりとりが少しずつ変わります。その変化を、子どもと一緒に楽しんでください。



じごくのそうべえ

田島 征彦／作
童心社

NO.42

地獄で出会った軽業師のそうべえと、歯抜き師、医者、山伏がそれぞれの特技を活かして地獄の責め苦を逃れ、生き返るというお話。落語に題材を得た奇想天外なストーリーと、大阪弁で書かれたリズムの良さが楽しい絵本です。



しゅくだい

いもと ようこ／文・絵
宗正 美子／原案
岩崎書店

NO.43

めえこ先生がいいました。「きょうのしゅくだいは……です。」すると、みんなはいつせいに「えー、うそー、ほんと？」と、大さわぎ。めえこ先生が出した「しゅくだい」は、おうちの人抱っこしてもらうという、素敵のことでした。しゅくだいをしたもぐくんの幸せな気持ちが伝わってくる絵本です。



ずーっと ずーっと だいすきだよ

ハンス・ウイルヘルム／作・絵
久山 太市／訳
評論社

NO.44

悪戯をしても、年をとって寝ていることが多くなっても、みんなは犬のエルフィーが好きでした。でも、エルフィーのことを一番好きだったのは「ぼく」でした。エルフィーとの楽しい日々と別れを、少年らしい心をしみじみと優しく描いた絵本です。

対象年齢
4・5
歳から



ないた あかおに

浜田 廣介／文
岩本 康之亮／絵
世界文化社

NO.45



にやーご

宮西 達也／作・絵
鈴木出版

NO.46

この本に出会うと、誰でもが引き込まれ、涙してしまう一冊です。全体がほどよい長さにまとまっており、リズムもあります。人を思いやることの大切さがつまっている素敵なお話です。あかおにがああおにの優しい気持ちに気付く場面は、何度も読んでも感動がこみあげてきます。

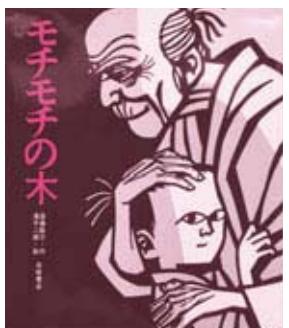
3匹のねずみの前に、突然あらわれた大きな猫。にやーご！……ところが、ねずみたちは「いっしょにももをとりにいかない？」と猫を誘います。やんちゃなねずみたちのペースにはまってしまった猫があもしろおかしく、ねずみたちと猫の会話も楽しい絵本です。



やまのぼり

さとう わきこ／作・絵
福音館書店

NO.47



モチモチの木

斎藤 隆介／作
滝平 二郎／絵
岩崎書店

NO.48

ばばあちゃんと、こいぬ、こねこ、そして森の動物たちが山登りに出かけようします。でもみんなが持ち寄った荷物が多くて遠くへ行けず、意外な場所で山登りをすることに…「ほんとに、こんなことができたらいいな」とばばあちゃんがうらやましくなります。ばばあちゃんシリーズです。

5歳になっても豆太は、おくびような子どもですが、病気の爺さまを助けたい一心で夜道を走りました。モチモチの木に灯りがともったすばらしい光景と出会いました。やしさがあれば強さが出てくるということが温かく描かれています。

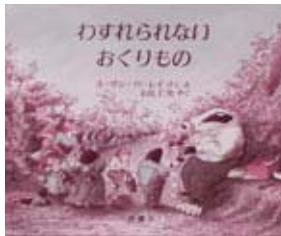
対象年齢
4・5
歳から



ももたろう

松井 直／文
赤羽 末吉／画
福音館書店

NO.49



わすれられない おくりもの

スザン・バーレイ／作・絵
小川 仁央／訳
評論社

NO.50

むかしあるところにおじいさんとおばあさんがすんでいました。おばあさんがかわでせんたくをしていると、てんぶくかんぶくとももが流れてきました。そのももから生まれたのが……ももたろう。日本の伝承文化のひとつとして昔話は子どもたちに大切に伝えていきたいものです。

まわりの誰からも慕われていたアナグマは、年をとって死んでしまいました。かけがえのない友を失った悲しみを、みんなはどうやってのりこえていくのでしょうか……。命の意味、友達の素晴らしさ、生きるための知恵や工夫を伝えあっていくことの大切さを語り、心にしみる感動をのこす絵本です。

読み聞かせ推奨図書目録作成委員会委員

委員長 野田 文子	社団法人青少年育成茨城県民会議副会長
委 員 有田 道子	茨城県優良図書審査会審査員
委 員 川崎三津子	茨城県保育協議会 (わかな保育園長)
委 員 助川 裕輔	茨城県知事公室女性青少年課長
委 員 須之内初子	茨城県読書をすすめる協議会会長 茨城県青少年健全育成審議会委員
委 員 田所 和雄	茨城県書店商業組合副理事長
委 員 津久井 稔	茨城県立図書館館内サービス課長
委 員 矢口 明子	茨城県幼稚園連合会 (水戸市立五軒幼稚園教頭)
委 員 山路 純子	前茨城県青少年健全育成審議会委員 (茨城大学教育学部附属幼稚園副園長)



この読み聞かせ推奨図書は、乳幼児のいる家庭で読み聞かせをしてほしい図書を県内の図書館及び保育所、幼稚園、読み聞かせ活動団体・グループから募集しました。

多くの応募をいただき、その図書の中から、「読み聞かせ推奨図書目録作成委員会」で選んだ50冊を、ご紹介しています。ぜひご活用下さい。

また、募集にご協力をいただきました関係機関・団体、関係者並びに選定にあたられた推奨図書目録作成委員会委員の皆様に心から感謝申し上げます。

社団法人青少年育成茨城県民会議

読み聞かせをとおしたふれあいのある豊かな家庭づくり
読み聞かせ推奨図書目録

平成17年3月発行

社団法人青少年育成茨城県民会議

〒310-0034 水戸市緑町1-1-18
TEL 029-227-2747 FAX 029-228-6200

ホームページ <http://business2.plala.or.jp/seiiku/>
Eメール seiiku@atlas.plala.or.jp

この読み聞かせ推奨図書目録は、茨城県の委託を受けて実施しました。
なお、掲載図書写真は各出版社の許諾を受けています。

表紙絵 藤田 邦子

